

令和6年度 教育研究所 班別研究

「特別活動プロジェクトチーム」

I 研究テーマ

互いに伝え、認め合う集団の中で、自己有用感を育む学級活動の充実
～学級力の見える化と話し合い活動の充実のための工夫を通して～

II 研究の目的

よりよい学級生活を築くため、児童生徒が主体となって合意形成を図る学級会（話し合い活動）を行うことや、合意形成したことを実践すること、そして、その活動が児童生徒の自己有用感の向上につながることにについて、実践をとおして提案する。

なお研究を進めるにあたっては、班員全員が共通の手立てとして「手立て1：学級力の見える化」に取り組み、「手立て2：話し合い活動の充実のための工夫」は班員それぞれが担任する学級の児童生徒の実態や発達段階に応じて工夫を講じる。

～「手立て1：学級力の見える化」とは～

「達成力」「自律力」「対話力」「協調力」「安心力」「規律力」の6つの力で捉える学級の状態を「学級力」とし、それぞれ4つの質問項目からアンケートを実施する。アンケートの結果をグラフ化して教室に掲示することで、学級の実態・課題が見える化し、児童生徒がクラスの課題を捉えられるようにするもの。

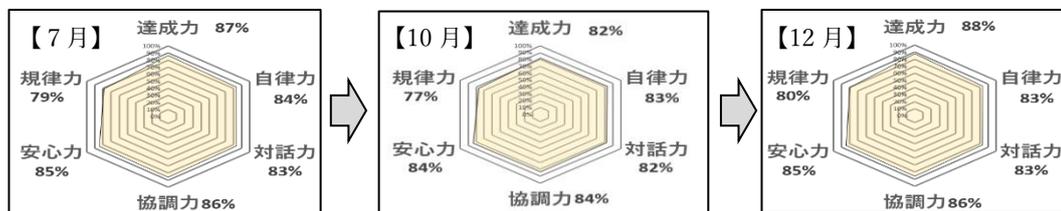


Ⅲ 研究内容

1 「A 教諭の実践」

(1) 実践内容

〔手立て1〕学級力の見える化



【学級力の変容】

〔手立て2〕話し合い活動の充実のための工夫

課題1：自分の考えを全体場で伝えることが苦手な集団である。

工夫1：「学級会ノート」を活用した事前のミニ打ち合わせ

「学級会ノート」を作成し、事前に、議題に対する自分の意見を書き込み、生活班で意見を伝え合って生じた新たな意見も記入できるようにした。

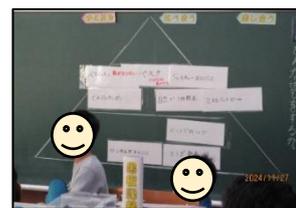
課題2：互いの意見を認め合い、合意形成を図ることが苦手な集団である。

工夫2：学級会グッズやシンキングツールの活用

○【グッドカード】意思を伝えるカードを準備することで、自ら挙手することに抵抗がある児童も考えを発表したり、他者の意見に賛成の意思を示したりできるようにした。

○【シンキングツール】ピラミッドチャートを用いて出た意見を整理することで、話し合いの方向性を意識して学級会を進めることができるようにした。

○【合意形成シート】合意形成のパターンを6種類設けて愛称をつけ、全員で共有することで、児童主体で合意形成を図れるようにした。



【シンキングツールの活用】



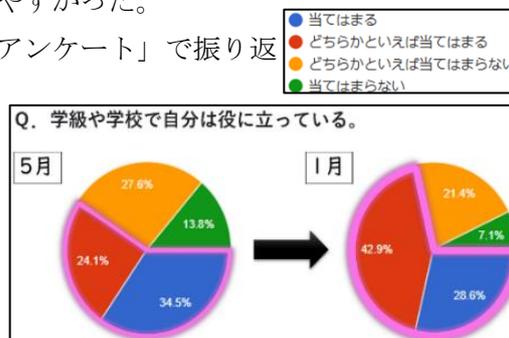
【合意形成シート】

(2) 成果 (○) と課題 (●)

○計画委員会で学級力をもとにした議題提案を推し進めたことにより、何のために話し合い、議決していくのか、児童がわかりやすかった。

○学級会で決まって実行したことを「学級力アンケート」で振り返ることで、自分ごととして話し合いに臨む児童が多くなり、自己有用感の向上を図ることができた。

●採用しない意見への配慮や反対意見の扱い方に課題がある。他教科における話し合い活動との関連を図ったり、学級会の経験をさらに積んだりする必要がある。

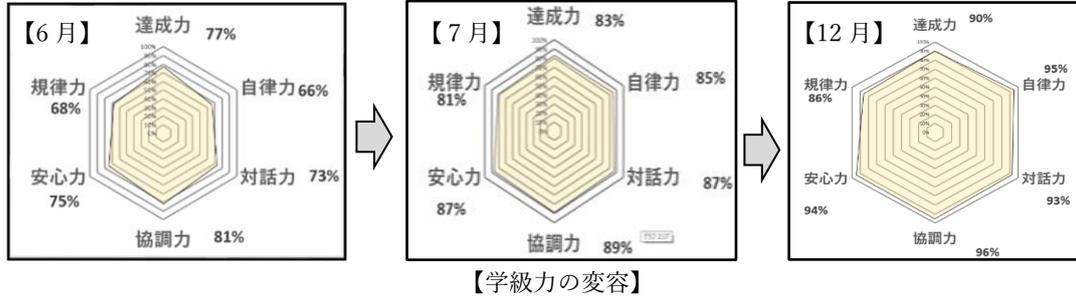


【児童アンケート】

2 「B 教諭の実践」

(1) 実践内容

〔手立て1〕学級力の見える化

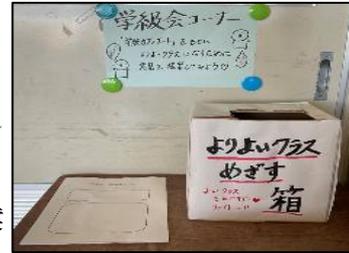


〔手立て2〕話し合い活動の充実のための工夫

課題1：学級会で話し合うための議題を児童が設定することが難しい。

工夫1：「よりよいクラスめざす箱」の設置

「よりよいクラスめざす箱」は、クラスで話し合うことをいつでも気軽に提案できるようにするために設置した。また、学級力アンケートの結果を近くに提示することで、クラスの現状を把握し、それに合った議題が提案できるようにした。



【よりよいクラスめざす箱】

課題2：学級会の経験が不足しているため、児童が主体的に学級会を進めていくことが難しい。

工夫2：話し合いを円滑に進めるための作戦の提示

児童が学級会を主体的に進められるようにするためのお助けグッズとして、「比べる過程」と「まとめる過程」の2つの視点で、作戦をつくり提示した。絵や言葉から進め方を想像できるものとし、児童の活用を促した。



【「比べる過程」の作戦例】



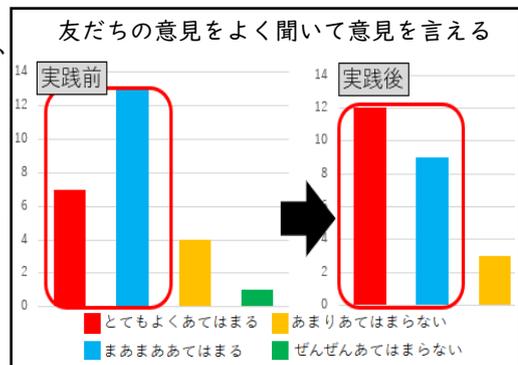
【「まとめる」の作戦例】

(2) 成果 (○) と課題 (●)

○「学級力」のグラフの掲示と「よりよいクラスめざす箱」の設置により、児童からたくさんの議題があがるようになり、クラスの課題解決の糸口になった。

○学級会の作戦を提示したことで、児童主体で、合意形成に向けた話し合いが行われるようになり、学級力が全体的にアップした。

●学級会の進行は児童主体でスムーズになったが、「まとめる」過程に課題が残った。全員が納得する合意形成を図るためのより効果的な手立てを講じる必要がある。

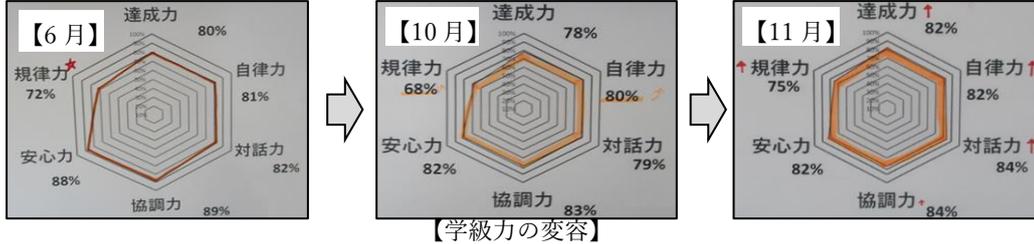


【児童アンケート】

3 「C 教諭の実践」

(1) 実践内容

〔手立て1〕学級力の見える化



〔手立て2〕話し合い活動の充実のための工夫

課題1：生徒が主体的に関わる学級会の経験が不足している。

発言する生徒に偏りがあり、自分の意見を伝えることが苦手な生徒が多い。

工夫1：生徒が学級会に主体的に関わるためのICTを活用した事前準備や振り返り

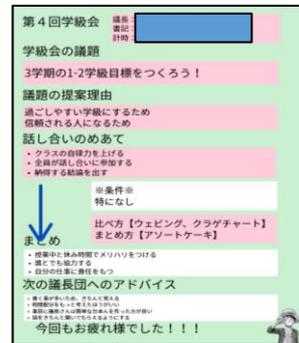
○計画委員会シート…計画委員会の生徒が、学級会の前に、「議題」「議題の提案理由」「話し合いのめあて」「比べ方、まとめ方」について検討し、記入するようにした。

○個人カード…学級会の前に「自分の考えとその理由」を記入し、学級会終了後には振り返りを記入できるようにした。

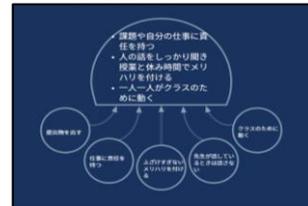
課題2：「比べ合う」過程の行い方に不安がある。

工夫2：シンキングツールを活用した話し合い

○計画委員会と打合せをしながら、学級会の議題や目的に合わせて使用するシンキングツールを決めた。シンキングツールを使用することで、意見が見やすく整理され、グループでの話し合いが活発に行われるようにした。



【計画委員会シート】



【シンキングツールの活用】

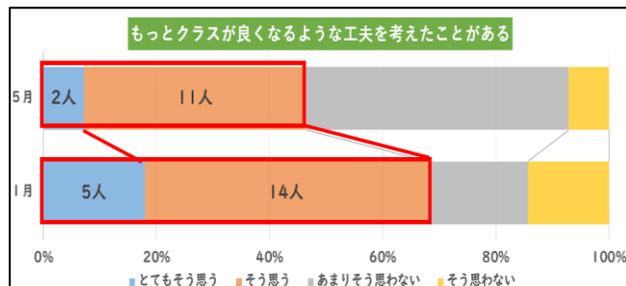
(2) 成果 (○) と課題 (●)

○計画委員会が中心となり、学級力アンケートの結果をもとにクラスの課題に合った議題を設定することで、生徒主体の話し合いにつながった。

○生徒が主体となって学級会を行ったことで、意見を伝え・認め合える生徒が増えた。

○シンキングツールを使うことで、話し合いのポイントが明確化でき、「比べ合う」過程が活発に行われた。

●生徒主体でたくさんの意見交換がされるようになったが、「まとめる」過程に課題が残った。生徒主体の学級会の質をさらに向上できるよう、「まとめる」過程の進行の工夫やシンキングツールの精選が必要である。



【生徒アンケート】

IV 特別活動プロジェクトチームの研究の成果と課題

1 研究の成果

- 「手立て1」について、「学級力アンケート」を用いて学級力を見える化したことは、児童生徒が自学級の課題を捉え、議題を自分ごととして学級会に取り組むことにつながった。
- 「学級力」を学校行事のねらい等を指導する際にも用いたことで、学級会の場のみならず、学校生活全体において「よりよい学級を目指そう」とする意識につながった。
- 「手立て2」について、担任が学級の児童生徒の実態を捉え、何が必要であるかを見極め、必要な支援をすることにより、児童生徒主体の学級会（話し合い活動）を実施することができた。
- 上記3点の成果は、児童生徒にとって「自分たちで考え・話し合い・決定し・実行した」という経験となり、学級の一員としての意識の高まり、そして、班の研究テーマでもある「自己有用感を育む」ことにつながった。

2 研究の課題

- 年度当初、班員の担任する学級の児童生徒は、学級会の経験が不足していた。経験を重ねることで、児童生徒が主体となり合意形成に向けて話し合う学級会の質が高まると考える。そのためには、学年や学校として、組織的に学級会を計画的・継続的に実施することが必要だと考える。
- 児童生徒は自分の意見を述べることはできるが、出された意見を比べ、みんなが納得する形に合意形成する力が不十分である。学級会の経験の積み重ねと並行し、各教科等における話し合い活動との関連を図ることも必要であると考え。